

タミル・ナド州概要

2024年9月
在チェンナイ総領事館

1 基礎データ

- * 州都: チェンナイ(1996年にマドラスから改称)
- * 人口: 7,640万2000人(2021年推計)
- * 面積: 13万58km²(県(District): 38)

- * 識字率: 80.09%(男性: 86.77%、女性: 73.44%)(2011年)
- * 宗教別人口比率: ヒンドゥー教; 87.58%、イスラム教; 5.86%、キリスト教; 6.12%(2011年)
- * 主要言語: タミル語

2 政治

(1) 州政府

- * 州知事: R.N. ラビ(R.N. Ravi)(2021年9月～)
- * 州首相: M.K. スターリン(M.K. Stalin)(DMK)(2021年5月～)

(2) 州議会: 一院制(任期5年、234議席)(2026年4月任期満了)

- * 与党: ドラビダ進歩連盟(DMK)129
 コングレス(INC)18 など
- * 野党: 全印ドラビダ進歩連盟(AIADMK)66
 インド人民党(BJP)4 など



スターリン州首相

(3) 概況

2021年4月の州議会議員選挙で、故カルナーニディ元州首相の後継となった息子スターリン元副州首相率いる野党DMKが勝利し、10年ぶりに政権の座を獲得。それまで与党であったAIADMKは、2016年12月のジャヤラリタ元州首相死去以来続いた党指導者間の主導権争いが一定の落ち着きを取り戻したものの、明確な後継リーダーを示せず、また州民の反現職感情と相まって大敗。

現DMK政権はその後の地方選挙でも勝利しており、スターリン州首相のリーダーシップの下、手堅い政策実施、政権運営を行っている。

3 経済

(1) 主要指標

- * 名目州内総生産(GSDP): 27兆000億ルピー(2023年度)
 ※州別で第2位
- * 1人当たり所得: 31万3955ルピー(2023年度)
- * 実質GSDP前年度比成長率: 8.21%(2023年度)
 ←8.19%(2022年度)

(2) 特徴

比較的良好な港湾等インフラ・立地条件及び豊富で比較的質の高い労働力に支えられ、経済規模は南部諸州最大。

主要産業は、自動車・自動車部品、電子機器、IT、繊維、化学、製薬など。自動車輸出高はインド全体の48%、自動車部品生産高はインド全体の34%を占める(2021年度)。工場数は49,619と州別で最多(2022年度)。「インドのデトロイト」とも呼ばれ、州政府はあらゆるセクターの投資誘致に積極的に取り組んでいる。

産業構成比は第一次産業13%、第二次産業34%、第三次産業53%(2023年度)。

(3) 日系企業の動向

チェンナイ及びその近郊を中心に多数の日系企業が進出(進出企業数: 185、拠点数: 586(2023年10月時点))。

チェンナイ日本商工会登録企業数は204社(24年9月現在)。

日系工業団地は3件(ワンハブ、マヒンドラ、双日マザーサン)。

主な進出企業は、日産自動車、ヤマハ発動機、東芝、コマツ、味の素、三井物産、三菱商事、住友商事、双日、豊田通商、三菱UFJ銀行、みずほ銀行、三井住友銀行、商船三井など。

4 在留邦人

- * 在留邦人数: 737人(うちチェンナイ660人)(2024年9月)
- * チェンナイ日本人会: 会員数558人(2024年9月)